

# 家族の協力で健全な漁業経営を 家族経営協定調印式

2月16日、山口ながと漁協湊支所で、湊地区家族経営協定調印式が行われました。

この家族経営協定は、健全な漁業経営と安らぎのある漁家生活の実現を目指して、家族がそれぞれの役割分担をルール化し、家事負担や労働時間など14項目を協定書に定めるもので、湊地区・川尻地区の9家族28人が協定を結びました。調印を終えた家族は、「これを機に家族みんなで協力して、安定した漁業経営を目指してがんば

ります」と抱負を語りました。この家族経営協定は今回を含め県内で29件締結されています。



# 第15回ふれあいスポーツ駅伝

2月1日、大畑小学校を起点、終点として8区間(14・58km)を走る「第15回ふれあいスポーツ駅伝大会」が開催されました。行政区ごとに小学生と一般男女で編成された10チーム80人が参加し、健脚を競い合いました。

地区民の交流を深め、走ることを通して体を鍛え、健康づくりに対する関心を深めることを目的としたこの駅伝は15回目を数え、沿道にはたくさんの方が駆けつけて盛んに声援を送っていました。



# 山口県メダル栄光体育賞 仙崎みずぶが受賞報告

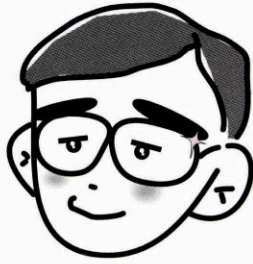
2月13日、県メダル栄光体育賞を受賞した仙崎みずぶのメンバー7人が松林市長に受賞の報告を行いました。

「全国シニアソフトボール山口長門大会で優勝するなど全国規模の大会での活躍が評価されました。」



# ながと日記 ばーと44

長門市長 松林正俊



## 50年を振り返る ●基礎期●

今年、長門市が誕生して50周年にあたります。昭和29年(1954年)、当時の通村・仙崎町・深川町・俵山村の2町2村が合併して現在の長門市が誕生しました。この年、全国で多くの市町村が合併し、昭和の大合併とよばれています。

さて、私たちは今、新たな枠組みでの合併を目指しています。来年の新生誕生を前に、過去の50年を振り返ってみることも私たちにあって大切なことのように思えます。

新生誕生の昭和29年は、台風15号の被害が年間予算を大幅に上回

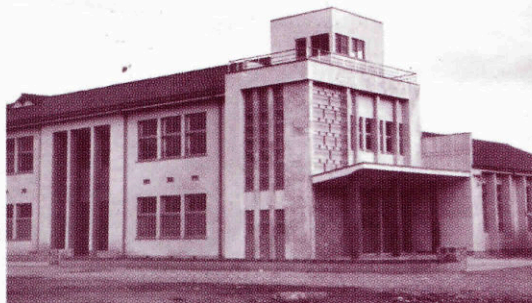
り、深川小学校が焼失するなど、新市は波乱のスタートを切ります。しかし翌年には、青海島が北長門海岸国定公園に、俵山温泉が国民保養温泉に指定され、長門商工会議所が設立されるなど、経済・観光の基盤づくりがはじめられました。

新生誕生当初の10年間は、上水道が完成して給水が開始され、長門電報電話局が発足し、区長制度が実施されるなど市民生活の向上や住民参加の地域づくりの基礎も築かれます。そして、市立図書館や中央公民館大講堂、各小中学校の新校舎、また市役所の新庁舎など、文化・教育・行政の基盤整備

も進められた10年でした。国内では、第5福竜丸の被爆や森永ヒ素ミルク中毒事件、伊勢湾台風の大被害など戦後を代表する災難もありましたが、昭和33年の関門国道トンネルの開通にみられるように内需拡大の基盤が整備され、国民所得倍増計画が打ち出されるなど右肩上がりの高度経済成長期に入っていきます。

一方、国際社会では「ベルリンの壁」や「キューバ危機」が象徴するように東西冷戦時代が本格化していきます。

米ソ大国の二極化が進む世界状況のなか、日本の高度経済成長に合わせるように、私たちの長門市



懐かしい旧中央公民館(昭和29年建築)